



いわき湯本温泉の活性化策を説明する学生

## 若者誘客の方法探る

湯本温泉で昭和女子大生 いわき

いわき湯本温泉活性化プロジェクトに取り組み昭和女子大（東京都）の現代ビジネス研究所に参加する学生七人は十日、いわき市・同温泉の旅館こいでプロジェクトの中間報告会を開いた。

東日本大震災からの復興に励むいわき湯本

映える食を楽しむ「プラン作り」に設定。スマホなどで地図上の店舗や観光施設のアイコンをクリックすると画像、案内、特典が表示される案などを説明した。

いわきの観光情報ナビゲーター「フラおじさん」を活用した若者向けLINEスタンプ

や、新たな土産品と料理の開発、フラダンス教室や版画風の重ね絵を使うスタンプラリーなどを盛り込んだ旅行プランも提案した。

草野昭男いわき湯本温泉旅館協同組合理事長、小井戸文恵湯の華会副会長ら地元関係者と市、いわき商工会議所の関係者が報告を聴き、意見を述べたり、助言したりした。

温泉に首都圏の若者を誘客しようと、現地の魅力を調べて動画などで発信するデジタルガイドブックと、旅行プラン作成に当たっている。

報告会では二十代の女性対象のアンケートを基に、テーマを「のんびりしながらSNS